

○令和5年度第1回山形県農林水産技術会議の質問・指摘事項への対応

分野	第1回会議質問・指摘事項	対応	回答機関
水稲	高温に対応した試験の実施状況及び結果 (曾我委員)	高温による変動に着目してデータ解析の一つとして、アミロース分析を行っています。R5は約1,000点を分析することとしており、2月までにすべての分析を行うこととしています。 香気成分に着目したメタボローム解析が行えるか、慶應義塾先端生命科学研究所と検討したいと考えています。	水田農研
西洋なし	クリスマス等年末需要に対応した品種の開発 (武居委員)	現在「ラ・フランス」の収穫期以外に収穫可能な優良品種の開発に取り組んでいます。直近の10年間で晩生品種を目指して11組合せの交雑をしており、特性調査を行っています。また、収穫後の予冷(追熟させる前の冷蔵処理)期間が長い方が食味が良くなる品種もあることから、有望な系統についてはクリスマス時期に合わせた長期予冷についても検討してまいります。	園芸研
りんどう	高温に強いりんどう品種の開発 (小野委員)	園芸農業研究所は、県内主産地よりも夏季の気温が高い寒河江市平坦部に位置しており、りんどうの高温障害が発生しやすい条件にあります。この中で、高温障害が発生した系統は淘汰して耐暑性のある系統を選抜し、品種開発を行っています。 既に産地で栽培されている8月から9月出荷の当所育成品種「ハインス」シリーズは高温障害が発生しにくい品種であり、現在7月出荷の新品種を育成中です。	園芸研
種雄牛	放牧に適した赤肉生産技術、育種 (木村委員)	本県では永年にわたり黒毛和種の育種改良に取り組んでいますが、黒毛和種の育種改良方針では、枝肉6形質等を対象としており、赤肉生産を主目的にはしていません。一方で、全国的には経産牛の肥育技術において、粗飼料の多給技術や放牧活用技術により赤肉を主体とした和牛肉生産流通が一部で取組まれております。 当研究所においても実証的に経産牛の放牧仕上げ(数カ月放牧してから出荷)にも取り組んでおり、飼料価格高騰対策、草地資源の有効活用及び肉資源としての繁殖牛の付加価値向上といった視点で基礎的な調査・研究を継続していきたいと考えています。	畜産研
養殖サクラマス	①「養殖に適した系統」とはどのようなものと考えているか (養松委員) ②降海したサクラマスが天然魚に影響しないか (西村委員)	①本県の自然条件(秋～冬季の波浪、夏季の高水温等)を考慮すると、養殖システムは閉鎖循環式陸上養殖が主体となると考えられます。「養殖に適した系統」は成長が早く、スモルト化率(降海型の割合)が高く、密度耐性も高い系統と考えています。養殖システム開発と並行しつつ、作出を進めてまいります。 ②本サクラマスは養殖用であり、天然魚に影響しないよう管理を行います。	水産研
スギ	①今後の無花粉性スギの育成 (山中委員) ②寒冷地に適応した(雪害が少ない、根曲がり少ない)スギ精鋭樹の開発状況、建築用資材としての活用の可能性 (佐藤委員)	①国の林木育種センターと連携して無花粉ヘテロスギの選抜に取り組み、育種年限を短縮していく予定です。 ②雪に強く、花粉が少なく、さらに材質が良い(ヤング率が高い)特定母樹の選抜を進めていきます。成長と材質が優れることから、建築材としての性能は高まると考えています。	森林研
菌茸類	①ニーズに合わせた菌茸類の品種開発の方向性 (山中委員) ②地球温暖化に対応した原木ナメコの品種開発 (佐藤委員)	①大手の施設では生産できない特色ある系統(形、色、大きさなど)を選抜し、差別化を図っていく方向です。 ②自然栽培で行う原木ナメコについては、高温・乾燥に耐える系統を絞り込んで安定生産につなげていきます。	森林研
林業一般	①バイオマス発電等燃料需要に対応した成長の早い品種の開発 (佐藤委員)	現在、ヤナギ、ハンノキ、ユリノキなど、バイオマス利用を含めた早生樹の適応調査を実施しており、試験植栽を進めています。	森林研